



## 熊本市 感染症発生動向調査 速報

### ●インフルエンザが2週連続注意報レベルです●

感染症発生動向調査で、平成29年 第52週(12月25日～12月31日)の熊本市の定点医療機関あたりの報告数が、19.08(定点数25ヶ所、患者報告数477人)となり、国が注意報レベルの基準値としている10を2週連続超えています。また、インフルエンザA型とB型の報告の割合がほぼ同数となっています。引き続き感染予防に努めましょう。

### ●流行性角結膜炎(はやり目)が増えています●

非常に感染力の強い、アデノウイルスによる感染症です。プールのときなどは、タオルの使い回しは避けましょう。

#### ◆どんな病気？

アデノウイルスによる感染症で、年齢による発症の差はあまりなく、どの年齢にもみられます。

- ・症状……結膜の充血、まぶたの浮腫、目やに、涙、眼痛、耳の前のリンパ節の腫れや痛みが起こります。最初は片目のみの発症が多いですが、感染力が強いため、もう片方も感染する場合があります。新生児や乳幼児では、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすことがありますので注意が必要です。

- ・潜伏期間…8～14日程度

- ・感染経路…感染者の目やにや涙に含まれるウイルスが、手やティッシュペーパー、タオル、洗面器などを介して感染します。感染してから2週間程度は感染力があるとされています。

- ・流行期……どの季節でもみられますが、8月を中心として夏場に多い傾向があります。



#### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・対症療法として、抗炎症剤の点眼を行います。細菌の混合感染を防ぐため、抗菌剤の点眼を行うこともあります。
- ・できるだけ他人への接触を避け、眼や目やに、涙などを触ったらすぐに手を洗いましょう。お風呂は最後に入るか、シャワーだけにしましょう。

#### ◆予防法は？

- ・タオルや洗面器、点眼薬など、目やにや涙が付着する可能性のあるものは個別にし、使いまわしは避けましょう。

期 間		平成29年 51週		平成29年 52週	
		12/18～12/24		12/25～12/31(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		324	12.96	477	19.08
RSウイルス感染症		7	0.44	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)		11	0.69	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	1.38	18	1.13
感染性胃腸炎		94	5.88	97	6.06
水痘(みずぼうそう)		11	0.69	11	0.69
手足口病		21	1.31	14	0.88
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		10	0.63	8	0.50
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		2	0.13	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		2	0.13	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		8	1.60	22	4.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00